

IBM Software Group

# IBM Rational Application Developer のマイグレーションについて

Rational software

→ Go to IBM



Innovation for a smarter planet

© 2010 IBM Corporation

# 用語について

## **RAD**

IBM Rational Application Developer

## **WAS**

IBM WebSphere Application Server

## **EAR**

Enterprise Archive の略で Java EE アプリケーションのパッケージ形式

# マイグレーション概要

## ■ ワークスペースのマイグレーション

- アプリケーションのファイルをより新しい RAD バージョンで処理可能とするためのマイグレーション

例 : RAD v5.1.2 → RAD v7.0.x

## ■ ターゲット・ランタイムのマイグレーション

- より新しいサーバーで実行・公開できるためのマイグレーション

例 : WAS v6.0 → WAS v6.1 → WAS v7.0 → WAS v8.0

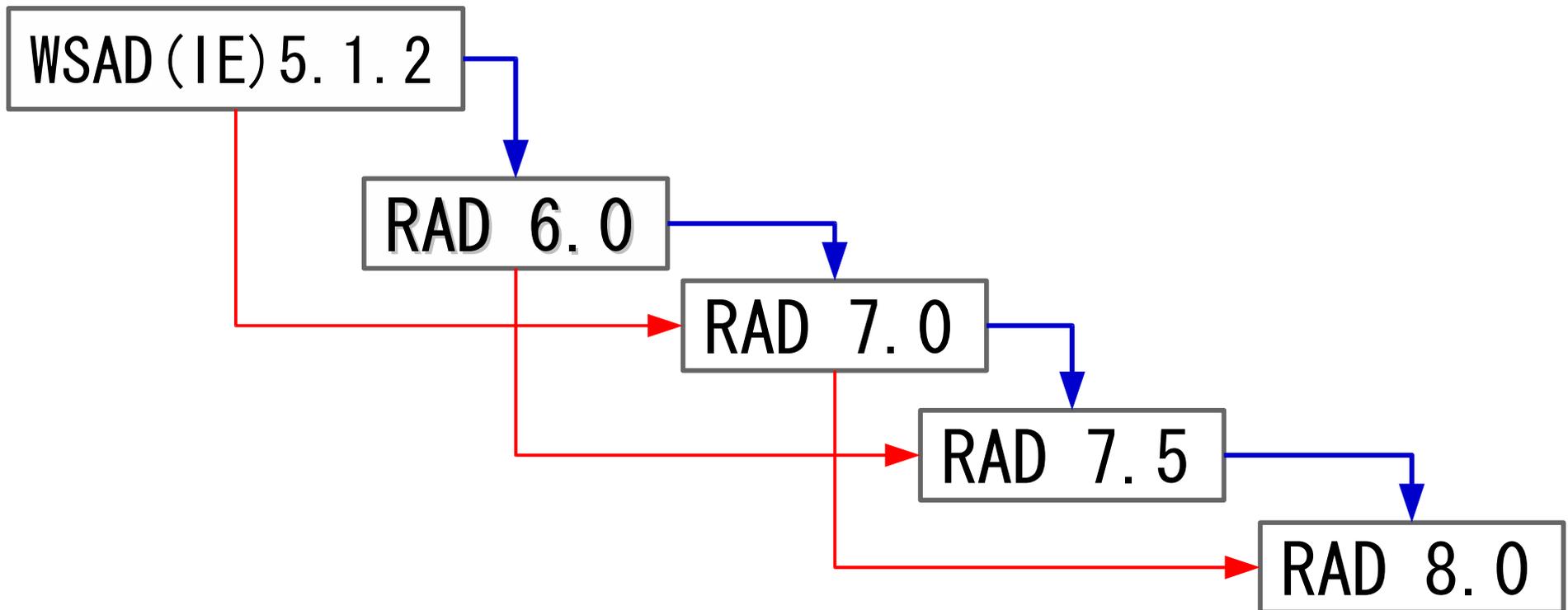
## ■ J2EE 仕様のマイグレーション

- アプリケーションがより新しい仕様レベルに対応できるためのマイグレーション
- 新しい仕様レベルの利点を享受するためのマイグレーション

例 : Java EE5 → Java EE6

# ワークスペースのマイグレーション・パス

- 2世代前のバージョンからのマイグレーションをサポートされます。
- WSAD と RAD v6.0 のサポートが終了されていますが、マイグレーションでお手伝いします。



# ワークスペースのマイグレーション・パス

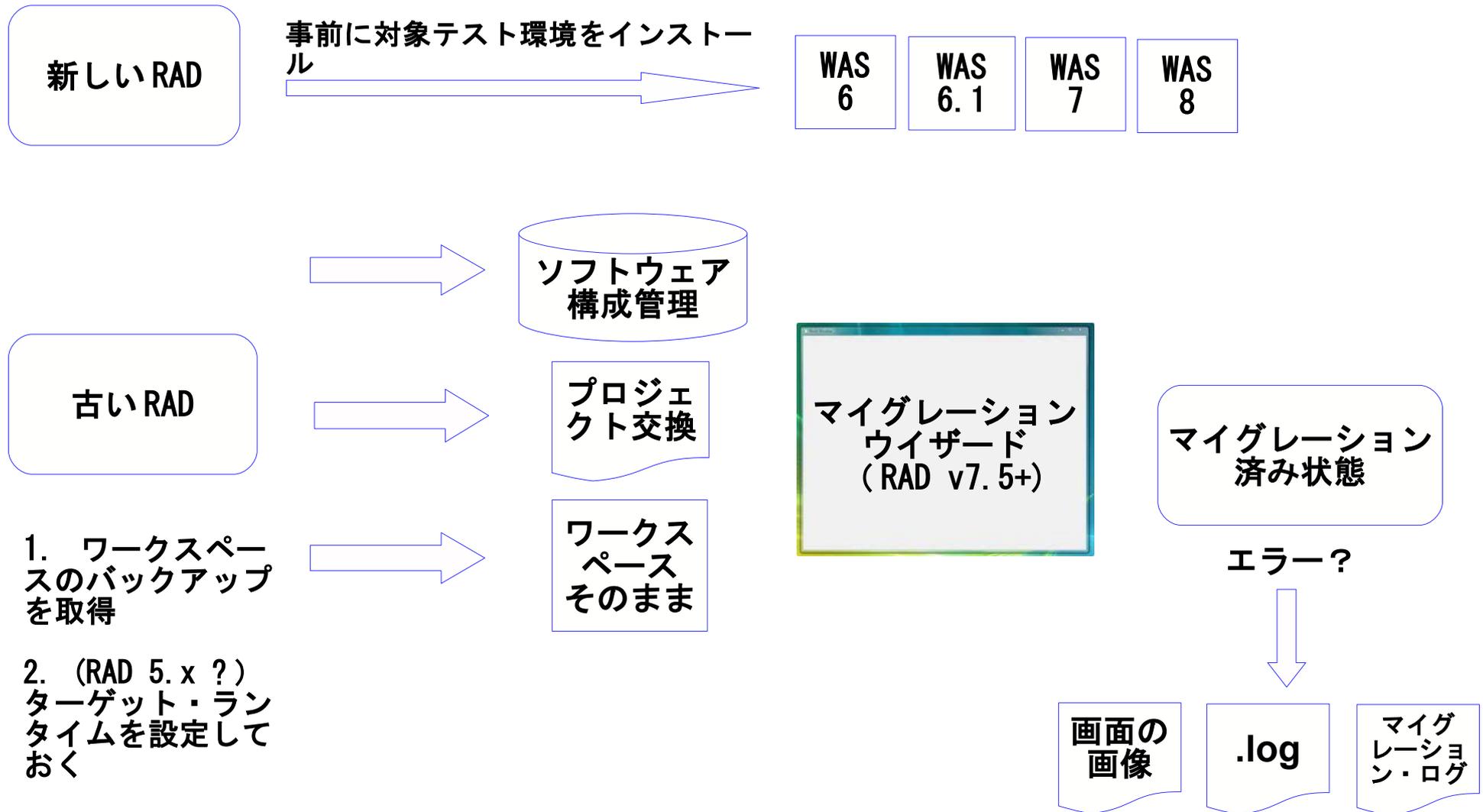
- 直接にマイグレートできない場合は、一つのバージョンを挟むなどの検討が必要です。

マイグレーション前	直接マイグレート可能 RAD バージョン
WSAD (IE) 5.1.2 以前	6.0.x
WSAD (IE) 5.1.2	7.0.x
RAD 6.0.x	7.5.x
RAD 7.0.x	8.0.x
RAD 7.5.x	8.0.x

WSAD = WebSphere Studio Application Developer

WSADIE = WebSphere Studio Application Developer Integration Edition

# ワークスペースのマイグレーション



# ターゲット・ランタイムのマイグレーション

- 参照されるサーバー・クラス・パスの変更です。  
(対象サーバーの JDK とライブラリ)
- 方法 1 (お勧め)
  - ワークスペースのマイグレーション・ウィザードで新しい WAS バージョンを設定します。
- 方法 2
  - 手動で該当プロジェクトのターゲット・ランタイムとファセットを設定します。

# ターゲット・ランタイムのマイグレーション

仕様または API	バージョン 8.0	バージョン 7.0	バージョン 6.1	バージョン 6.0
Java™ Platform, Enterprise Edition (Java EE) 仕様	Java EE 6 (JSR 316)	Java EE 5	J2EE 1.4	J2EE 1.4 J2EE 1.3 J2EE 1.2
Java Platform, Standard Edition (Java SE) 仕様	Java SE 6	Java SE 6	J2SE 5	J2SE 1.4.2

WAS 8.0 も J2EE 1.2 まで互換性が保たれているので、ターゲット・ランタイムを変更しても仕様レベルを心配する必要はありません。

## J2EE 仕様のマイグレーション

- 該当 EAR プロジェクトを右クリックし、J2EE マイグレーション・ウィザードを起動します。
- 最低限、準拠するためのマイグレーションです。
  - 主にデプロイメント記述子の変更です。ソース・コードは変更されません。
- RAD は WASPreUpgrade と WASPostUpgrade は使用しません。
- 多くの場合、任意のマイグレーションです。

# マイグレーションのヘルプについて

- WAS インフォメーション・センターの「マイグレーション、共存、および相互運用」セクションを参照することをお勧めします。

- Web アプリケーション
- Web サービス
- EJB など

- [EJB アプリケーションのマイグレーション](#)

このページは、エンタープライズ Bean に関する情報を検索するため:

- [メッセージ・リソースのマイグレーション](#)

このページは、エンタープライズ・アプリケーション用の非同期メッセージ:

- [ネーミングおよびディレクトリーのマイグレーション](#)

このページは、ネーミング・サポートに関する情報を検索するための Directory Interface (JNDI) サービス・プロバイダーです。JNDI

- [OSGi アプリケーションのマイグレーション](#)

このページは、WebSphere Application Server バージョン 7 で

- [スケジューラー・サービスのマイグレーション](#)

このページは、スケジューラー・サービスに関する情報を検索するため:

- [サービス統合のマイグレーション](#)

このページは、サービス統合に関する情報を検索するための開始点

- [トランザクションのマイグレーション](#)

このページは、Java Transaction API (JTA) サポートに関する情報

- [Web アプリケーションのマイグレーション](#)

このページは、Web アプリケーションに関する情報を検索するため:

- [Web サービスのマイグレーション](#)

このページは、Web サービスに関する情報を検索するための開始点:

# RAD マイグレーション手順のご紹介



# 今回のマイグレーションシナリオ

- RAD 7.5 から RAD 8 へのアップデート
- Websphere Application Server テスト環境も 7 から 8 へアップデート
- 同一マシン上でのアップデート

## ▪ マイグレーション前環境

RAD 7.5.5.4

WebSphere Application Server テスト環境 7

J2EE 5

Windows XP SP3

## ▪ マイグレーション後環境

RAD 8.0.3

WebSphere Application Server テスト環境 7

J2EE 6

Windows XP SP3

# RAD8 / WAS 8 テスト環境のインストール

- 第一ステップでは、RAD8 / WAS 8 テスト環境を端末にインストールします。

STEP 1: RAD8 のインストール

STEP 2: RAD8 のアップデート

STEP 3: WAS8 テスト環境のインストール

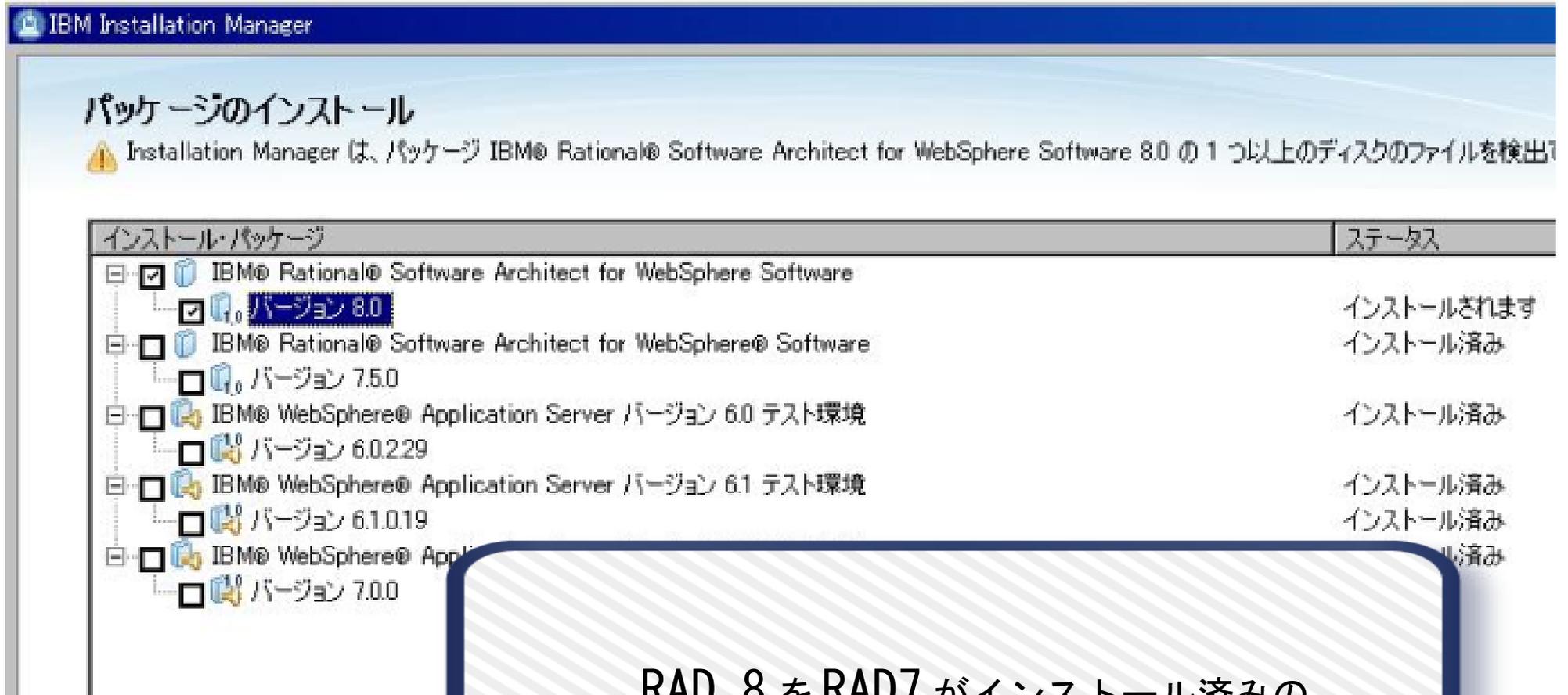
STEP 4: WAS8 テスト環境のアップデート

※ 本資料では製品のインストール、更新という手順を取っていますが、最新版の製品をPAからダウンロードいただいた場合は、アップデートの必要はありません。

## STEP1 : RAD 8 のインストール

IBM Installation Manager から、RAD 8 のインストールを行います。

→ Installation Manager のメインメニューから「インストール」



IBM Installation Manager

### パッケージのインストール

⚠ Installation Manager は、パッケージ IBM® Rational® Software Architect for WebSphere Software 8.0 の 1 つ以上のディスクのファイルを検出しました。

インストール・パッケージ	ステータス
<input checked="" type="checkbox"/> IBM® Rational® Software Architect for WebSphere Software	インストールされます
<input checked="" type="checkbox"/> バージョン 8.0	インストールされます
<input type="checkbox"/> IBM® Rational® Software Architect for WebSphere® Software	インストール済み
<input type="checkbox"/> バージョン 7.5.0	インストール済み
<input type="checkbox"/> IBM® WebSphere® Application Server バージョン 6.0 テスト環境	インストール済み
<input type="checkbox"/> バージョン 6.0.229	インストール済み
<input type="checkbox"/> IBM® WebSphere® Application Server バージョン 6.1 テスト環境	インストール済み
<input type="checkbox"/> バージョン 6.1.0.19	インストール済み
<input type="checkbox"/> IBM® WebSphere® App...	インストール済み
<input type="checkbox"/> バージョン 7.0.0	インストール済み

RAD 8 を RAD7 がインストール済みの環境にインストールを行います。

## STEP1 : RAD 8 のインストール

IBM Installation Manager から、RAD 8 へライセンス適用を行います。

→ Installation Manager のメインメニューから「ライセンスの管理」

インストール済みパッケージ	ベンダー	ライセンス・タイプ
<ul style="list-style-type: none"> <li>[-] IBM Software Delivery Platform               <ul style="list-style-type: none"> <li>[-] IBM® Rational® Software Architect for WebSphere® Software 7.5.5.4</li> </ul> </li> <li>[-] IBM Software Delivery Platform_1               <ul style="list-style-type: none"> <li>[-] IBM® Rational® Software Architect for WebSphere Software 8.0.3</li> </ul> </li> </ul>	IBM	永続
	IBM	試用



永続ライセンス・キーおよびご使用条件をインストールするために、製品アクティベーション・キットをインポートします

- 製品アクティベーション・キットのインポート①

フローティング・ライセンスの適用を可能または不可にするために、フローティング・ライセンス・サポートを設定します

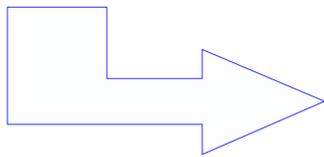
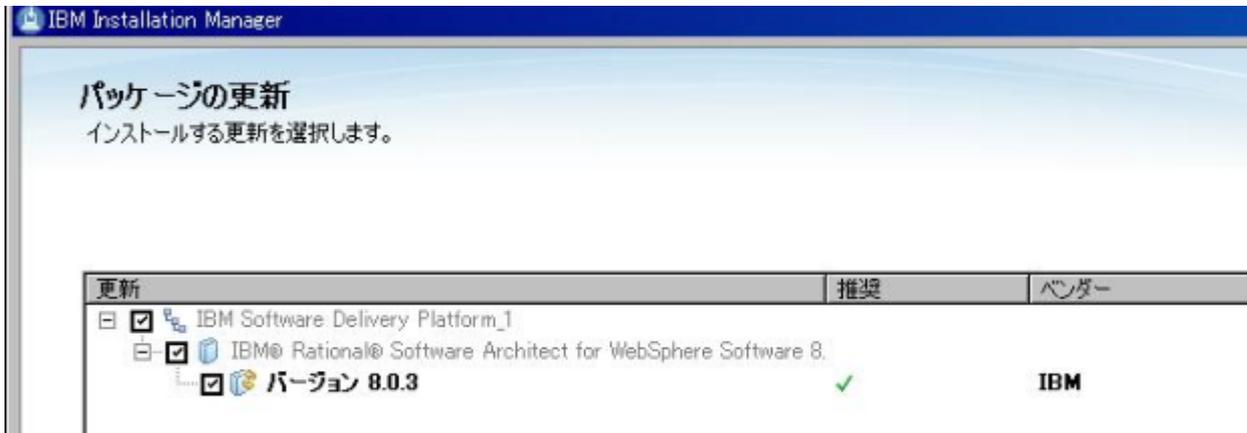
- フローティング・ライセンス・サポートの設定②

※ ライセンスファイルは、License Key Center からダウンロードできます。  
<http://www-06.ibm.com/software/jp/rational/support/license.html>

## STEP2 : RAD 8 最新版へのアップデート

- WAS 8は、RAD 8.0.3 から対応しており、RAD8.0.3以降にアップデートする必要があります。
- Installation Manager のメインメニューから「更新」

### ターゲット・バージョンの選択で表示される 8.0.3 を選択



更新が始まります



※ 当資料作成時のRAD 最新版は 8.0.3 のため、8.0.3 へのマイグレーションを実施しておりますが、現在 RAD 8.0.4 がリリースされております。

## STEP3 : Websphere Application Server テスト環境の導入

- Installation Manager から、Websphere Application Server 8 テスト環境を導入します。
    - R A D 8.0 導入時と同じ手順で Installation Manager から導入します。
- Installation Manager のメインメニューから「インストール」

### パッケージのインストール

⚠ Installation Manager は 1 つ以上のディスクのファイルを検出できません。インストールを続行する場合は、これらのファイルの詳細については、「リポジトリ情報」を参照してください。

インストール

ライセンス

ロケーション

フィーチャー

要約

### ターゲット・ロケーション

パッケージ・グループ名: IBM WebSphere Application Server V8.0

インストール・ディレクトリ: C:\Program Files\IBM\WebSphere\AppServer

共有リソース・ディレクトリ: C:\Program Files\IBM\SDPShared

### パッケージ

#### パッケージ

- IBM WebSphere Application Server 8.0.0.0
  - EJB 3.0 より前のモジュール用の EJBDeploy ツール
  - スタンドアロン・シン・クライアント、リソース・アダプター、および組み込み可能コンテナ
    - スタンドアロン・シン・クライアントおよびリソース・アダプター
    - 組み込み可能 EJB コンテナ

## STEP4 : Websphere Application Server テスト環境のアップデート

- RAD のアップデートと同様の手順で、Installation Manager より、アップデートを行います。  
→ Installation Manager のメインメニューから「更新」

### パッケージの更新

インストールするフィックスを選択します。

フィックス	推奨	ベンダー
Application Server V8.0		
Application Server 8.0.0.0 (インストール済み)		
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM38438 8.0.0.20110602_1431	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39074 8.0.0.20110603_0832	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39082 8.0.0.20110610_0758	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39105 8.0.0.20110608_1012	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39126 8.0.0.20110602_2325	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39268 8.0.0.20110614_0811	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39272 8.0.0.20110614_0820	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39457 8.0.0.20110609_1743	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39468 8.0.0.20110607_1655	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39531 8.0.0.20110602_1540	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39754 8.0.0.20110602_1212	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM39777 8.0.0.20110603_1525	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM40658 8.0.0.20110603_0906	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM40967 8.0.0.20110608_1343	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM42453 8.0.0.20110628_1032	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM42458 8.0.0.20110627_2052	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-IFPM45322 8.0.0.20110823_1021	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WAS-MultiOS-IFPM40361 8.0.0.20110602_1540	✓	
<input checked="" type="checkbox"/> 8.0.0.0-WS-WASBase-IFPM41305 8.0.0.20110614_1012	✓	

適用可能なFixが表示され、自動的に選択されています。

## RAD 8 上でのマイグレーション

次のステップでは、RAD8 上でマイグレーションを行います。

STEP5: ワークスペースのマイグレーション

STEP6: ターゲットランタイムのマイグレーション

STEP7: JDK コンパイル・レベルの変更

STEP8: J2EE 仕様のマイグレーション

STEP9: WAS8 へのデプロイ

※ 前章 マイグレーション概要でご説明した

- ・ワークスペースのマイグレーション
- ・ターゲット・ランタイムのマイグレーション
- ・J2EE 仕様のマイグレーション

および、JDK コンパイル・レベルの変更、WAS8 へのデプロイ手順をご紹介します。

## STEP5: ワークスペースのマイグレーション

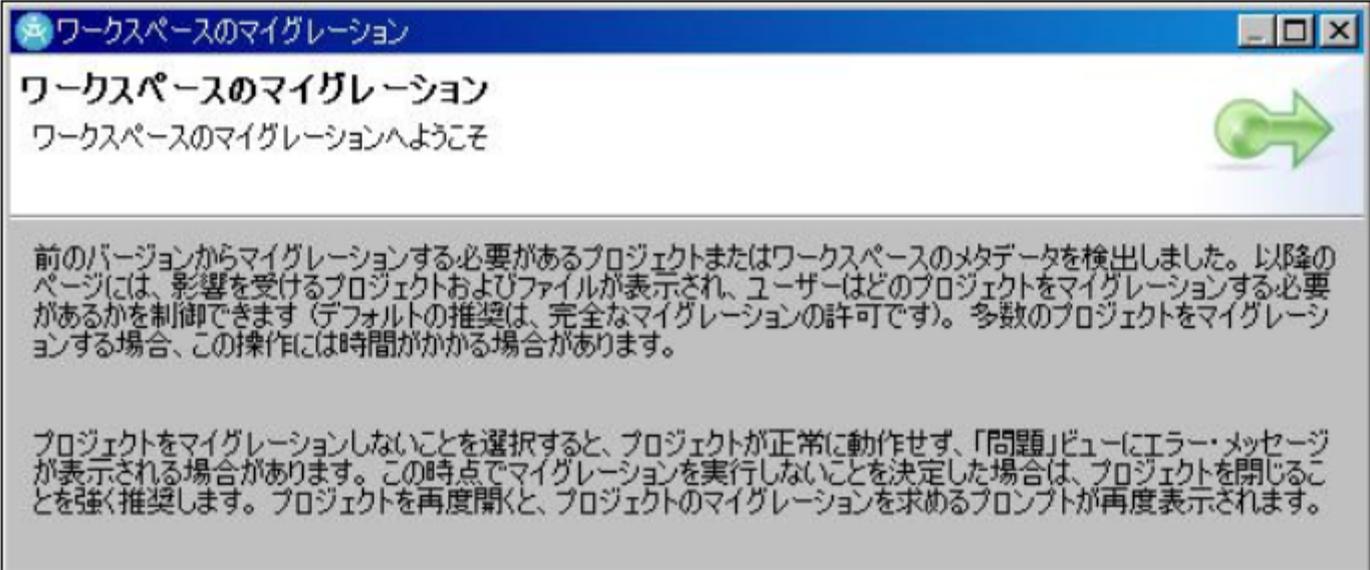
- アプリケーションのファイルをより新しいRADバージョンで処理可能とするためのマイグレーション
- RAD8 で開発が可能になるよう、RAD 内部で使用するファイルのマイグレーションが行われます。こちらによってアプリケーションの動きは変わりません。
- RAD8 から RAD 7.5 で使用していたワークスペースを開くと、ワークスペース・マイグレーション・ウィザードが自動的に開始されます。

※RAD8 から直接ワークスペースが開けるのは、RAD7 および 7.5 のワークスペースになります。

※（注意）ワークスペース・マイグレーション・ウィザードにてマイグレーション実施後は、古いRAD（今回のケースでは 7.5）からワークスペースを開くことはできなくなります。

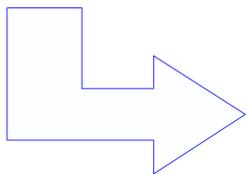
## STEP5: ワークスペースのマイグレーション

- マイグレーションウィザードが自動的に始まります

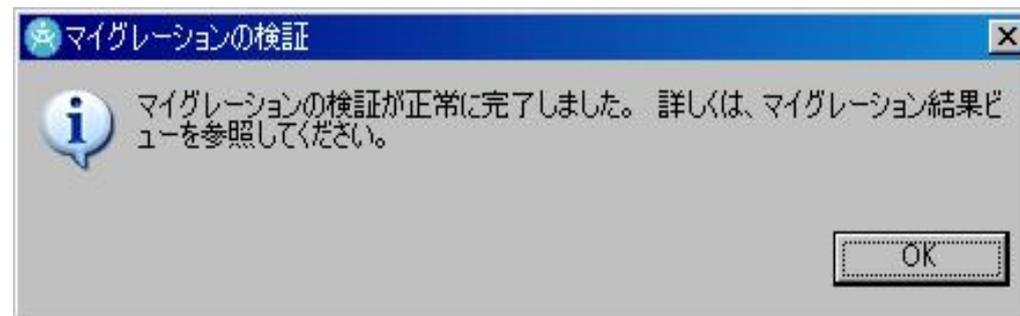
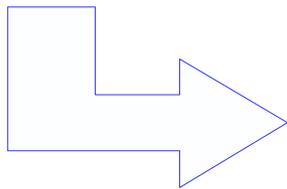
- 

前のバージョンからマイグレーションする必要があるプロジェクトまたはワークスペースのメタデータを検出しました。以降のページには、影響を受けるプロジェクトおよびファイルが表示され、ユーザーはどのプロジェクトをマイグレーションする必要があるかを制御できます（デフォルトの推奨は、完全なマイグレーションの許可です）。多数のプロジェクトをマイグレーションする場合、この操作には時間がかかる場合があります。

プロジェクトをマイグレーションしないことを選択すると、プロジェクトが正常に動作せず、「問題」ビューにエラー・メッセージが表示される場合があります。この時点でマイグレーションを実行しないことを決定した場合は、プロジェクトを閉じることを強く推奨します。プロジェクトを再度開くと、プロジェクトのマイグレーションを求めるプロンプトが再度表示されます。



## STEP5: ワークスペースのマイグレーション



正常にマイグレーションが行われた場合、このようなポップアップが表示されます。

## STEP6: ターゲットランタイムのマイグレーション

- 新しい WAS サーバーでアプリケーションを公開するためのマイグレーション
  
- 以下のステップでターゲットランタイム（稼動する WAS の変更）を行います。
  - 1) ワークスペースに WAS8 ランタイムの追加
  - 2) プロジェクトのランタイムを WAS8 に変更
  - 3) コンパイラ準拠レベルを WAS8 用に修正（必要に応じて）

## STEP6: ターゲットランタイムのマイグレーション

- 1. WAS8 ランタイムを追加します。

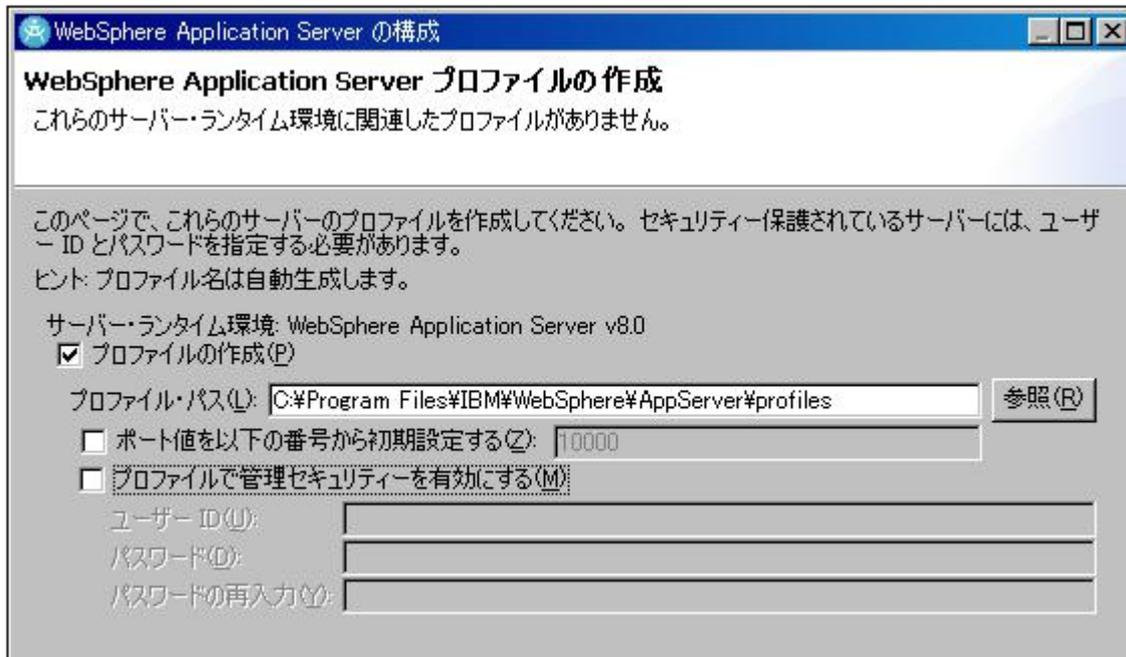
→ RAD 8 / WAS 8 インストール後、初回起動時に自動的にウィザードが立ち上がります。

- 立ち上がらない場合は、「サーバー」ビューを右クリックし、「サーバー」をクリックすると、ウィザードを開始できます。
- サーバータイプに WebSphere Application Server 8.0 を選択します。

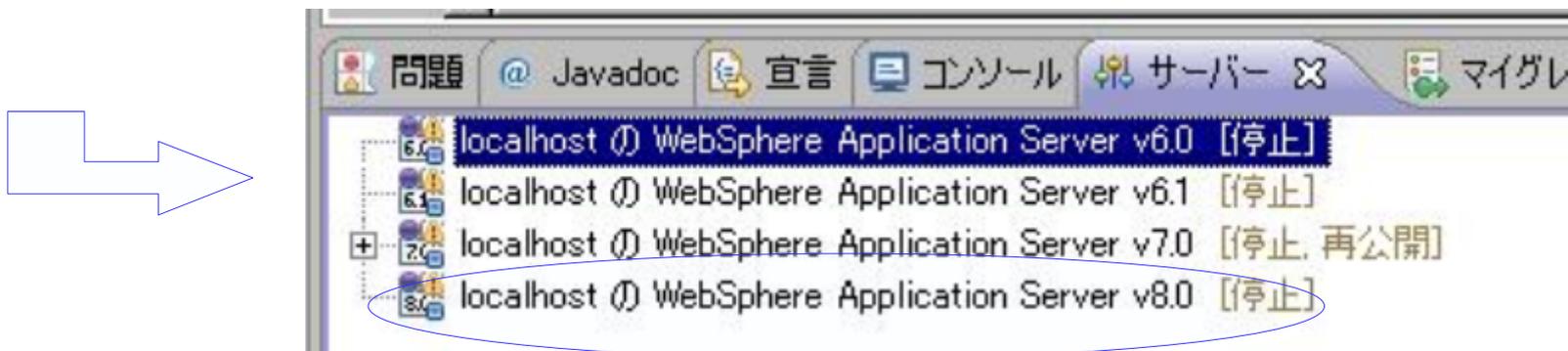


こちらのウィザードで WAS8 がワークスペースから使えるようになります。

## STEP6: ターゲットランタイムのマイグレーション



WAS プロファイルの作成、詳細設定が不要な場合は「終了」をクリックするとデフォルトプロファイルが作成される。



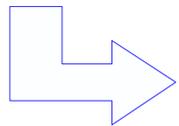
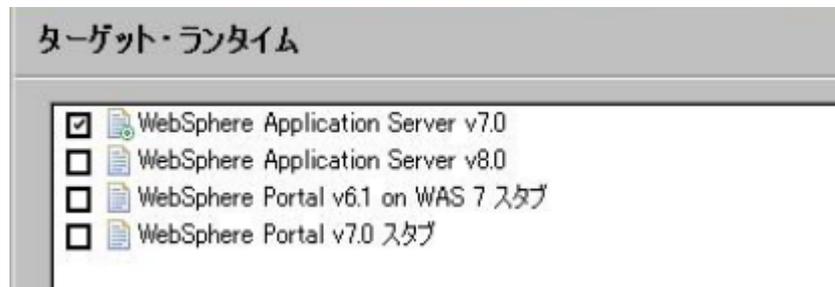
WAS8 サーバーがワークスペースに追加されている (サーバービュー)

## STEP6: ターゲットランタイムのマイグレーション

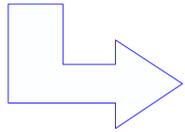
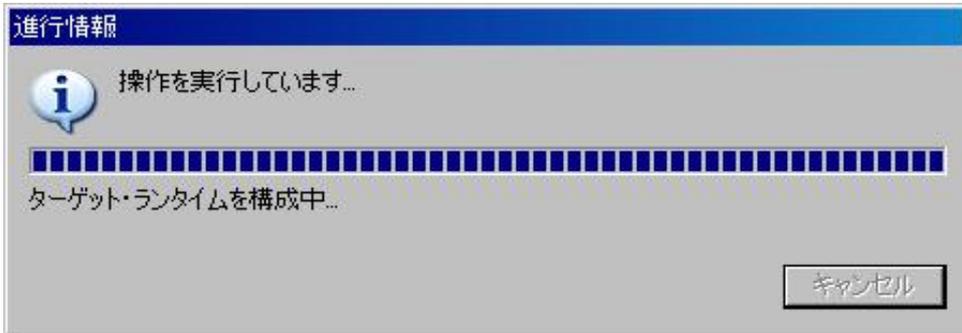
- 2. プロジェクトのターゲットランタイムを WAS8 に変更します。

→ プロジェクトを右クリック、プロパティから「ターゲット・ランタイム」

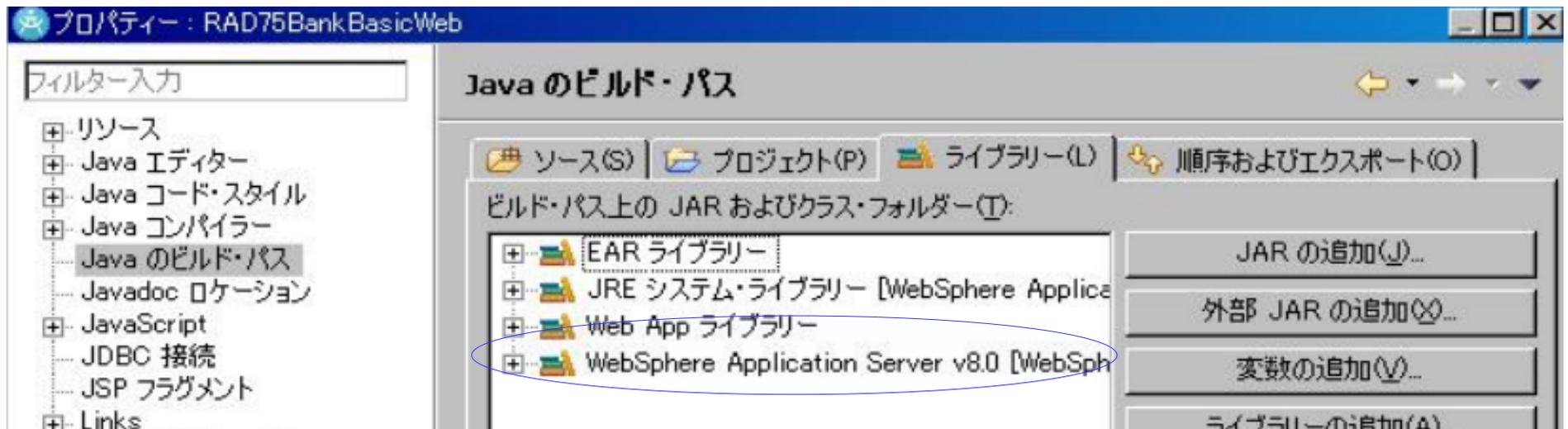
- Java ソースプロジェクト、および EAR プロジェクトの両方に実施する必要があります。



## STEP6: ターゲットランタイムのマイグレーション

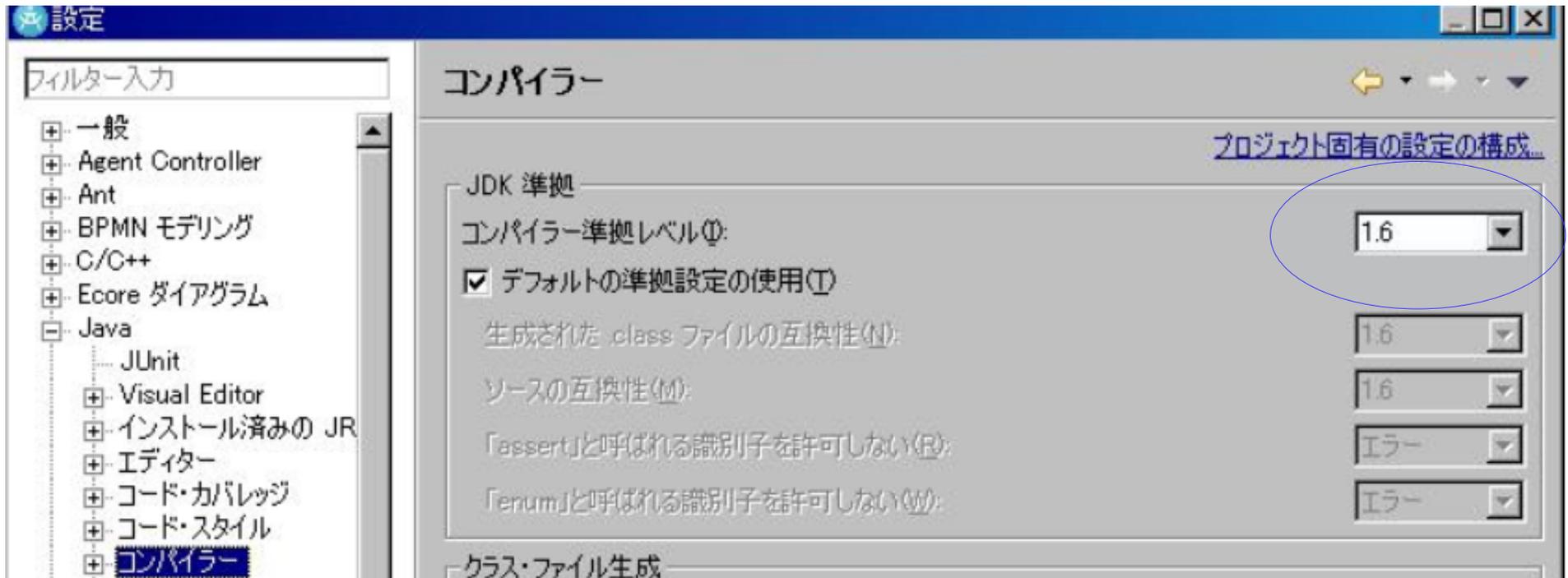


構成変更が実施され、ビルド・パスに WAS8 ライブラリが追加される。



## STEP6: ターゲットランタイムのマイグレーション

- コンパイラの JDK 準拠レベルを必要に応じて変更します。
  - WAS 7/8 では、ともに JDK 1.6 を使用しているため、今回は変更しません。
  - メニューの設定より、「Java」 → 「コンパイラ」

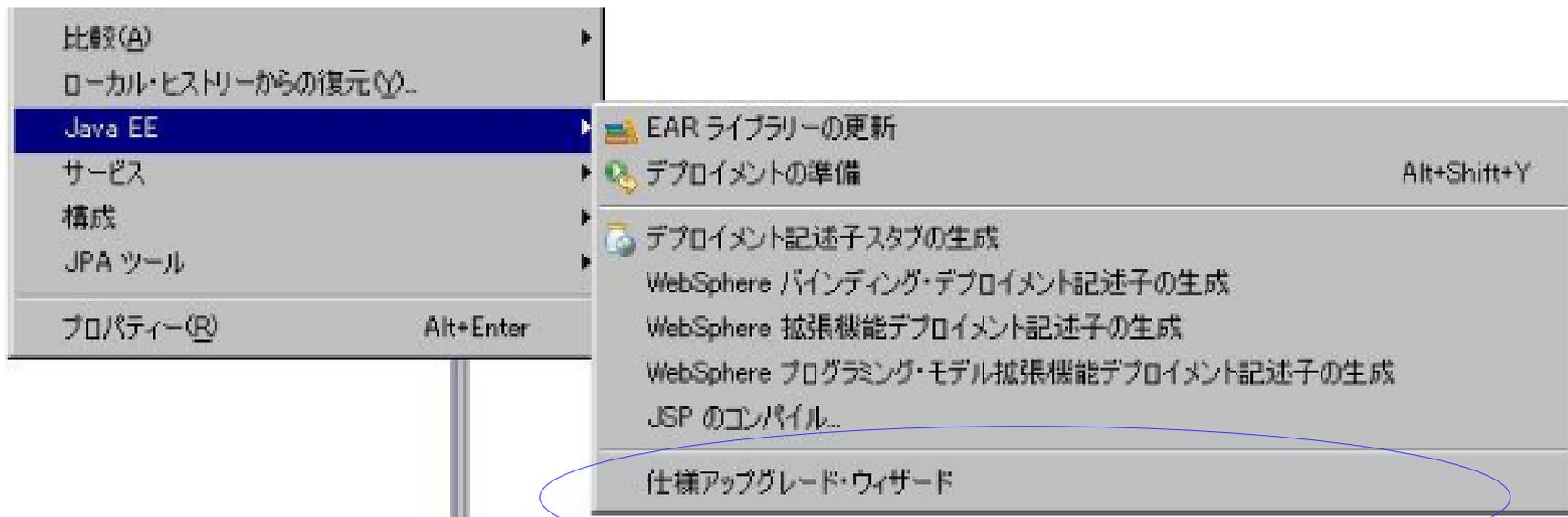


Eclipse では、JDT コンパイラを使用しております。  
JDT コンパイラの振舞いを JDK レベルと合わせるための設定です。

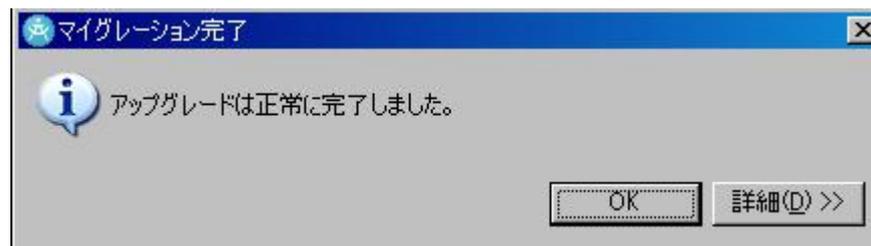
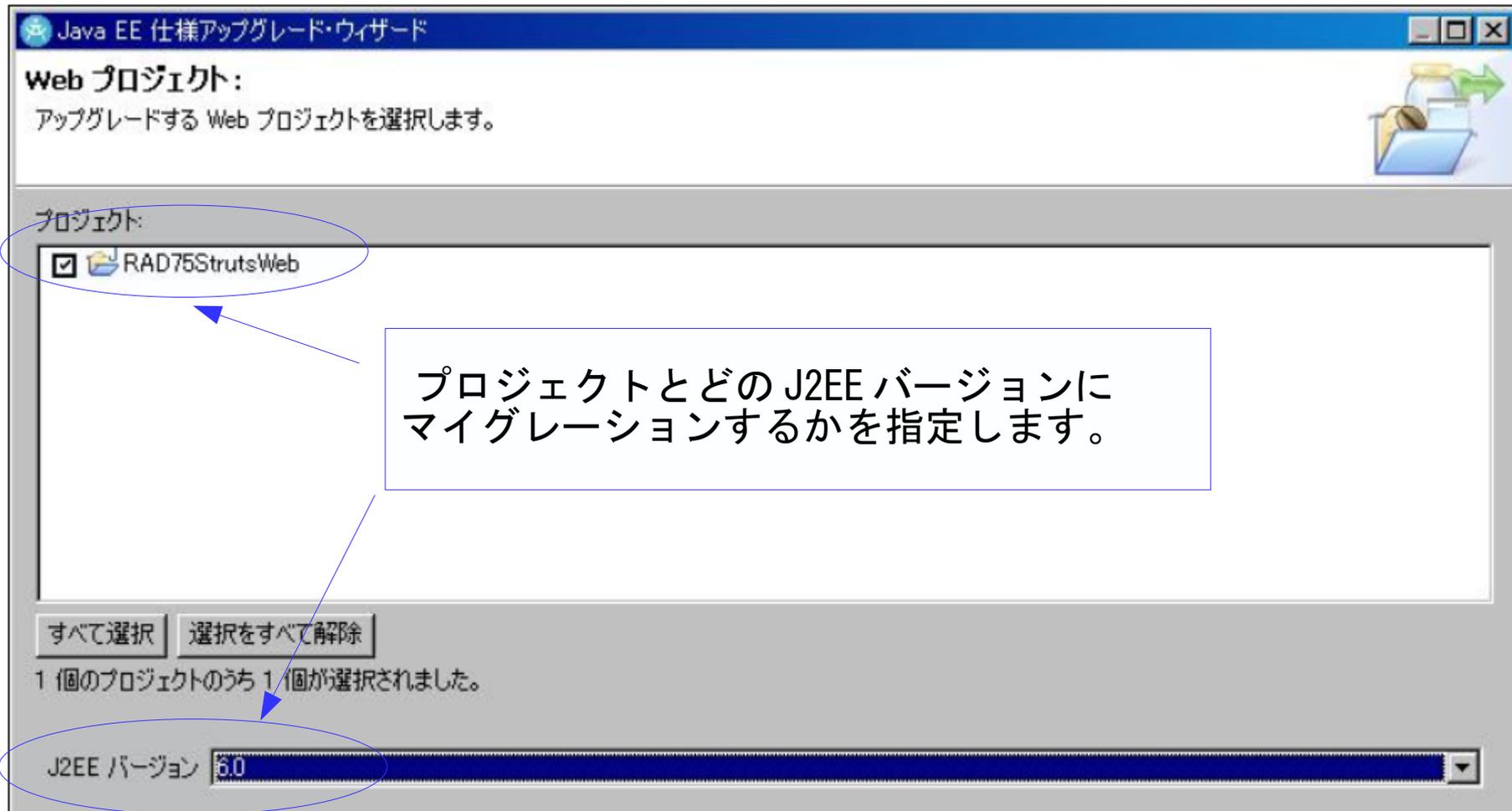
## STEP7: J2EE 仕様のマイグレーション

- アプリケーションがより新しい仕様レベルに対応できるためのマイグレーション
- 稼動環境を WAS8 に移行すると、J2EE6 が使用できます。（変更は必須ではありません）
- J2EE 仕様マイグレーション・ウィザードは、J2EE 構成ファイルのマイグレーションを行います。
  - EAR プロジェクトをマイグレーションすると、ソースプロジェクトも合わせてアップデートされます。

→ プロジェクトを右クリック → 「JavaEE」 → 「仕様アップグレード・ウィザード」

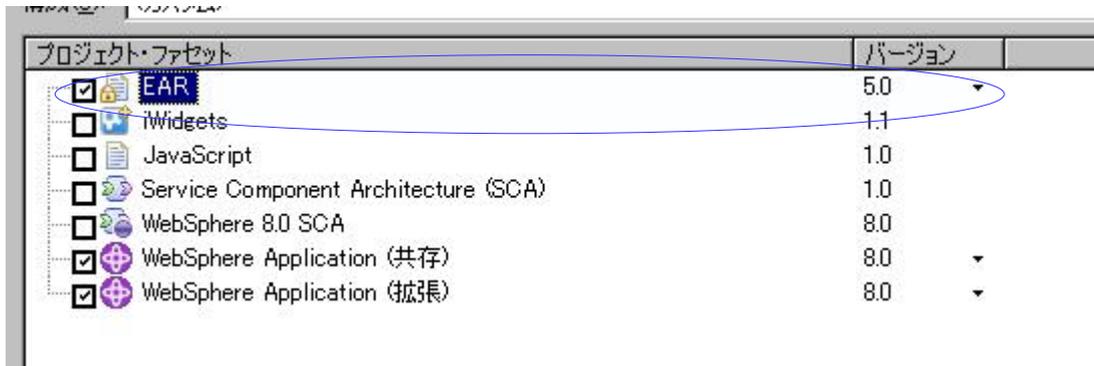


## STEP7: J2EE 仕様のマイグレーション



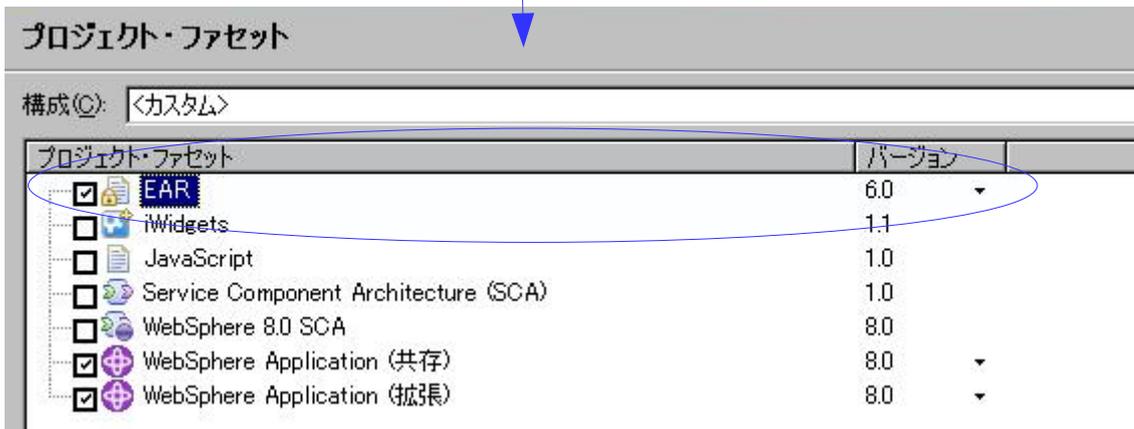
## STEP7: J2EE 仕様のマイグレーション

- プロジェクトを右クリック→プロパティ→プロジェクト・ファセットより仕様バージョンの確認ができます。



The screenshot shows the 'Project Facets' dialog box with a table of facets and their versions. The 'EAR' facet is selected and highlighted with a blue oval. A blue arrow points from this oval to the second screenshot.

プロジェクト・ファセット	バージョン
<input checked="" type="checkbox"/> EAR	5.0
<input type="checkbox"/> iWidgets	1.1
<input type="checkbox"/> JavaScript	1.0
<input type="checkbox"/> Service Component Architecture (SCA)	1.0
<input type="checkbox"/> WebSphere 8.0 SCA	8.0
<input checked="" type="checkbox"/> WebSphere Application (共存)	8.0
<input checked="" type="checkbox"/> WebSphere Application (拡張)	8.0



The screenshot shows the 'Project Facets' dialog box with the 'EAR' facet now updated to version 6.0. A blue oval highlights the 'EAR' row, and a blue arrow points from the first screenshot to this one.

プロジェクト・ファセット	バージョン
<input checked="" type="checkbox"/> EAR	6.0
<input type="checkbox"/> iWidgets	1.1
<input type="checkbox"/> JavaScript	1.0
<input type="checkbox"/> Service Component Architecture (SCA)	1.0
<input type="checkbox"/> WebSphere 8.0 SCA	8.0
<input checked="" type="checkbox"/> WebSphere Application (共存)	8.0
<input checked="" type="checkbox"/> WebSphere Application (拡張)	8.0

EAR プロジェクトのバージョンが5 (J2EE1.5) から6 (J2EE6) にあがっています。  
同様に、サーブレット (動的ウェブ・モジュール) のバージョンなども確認できます。

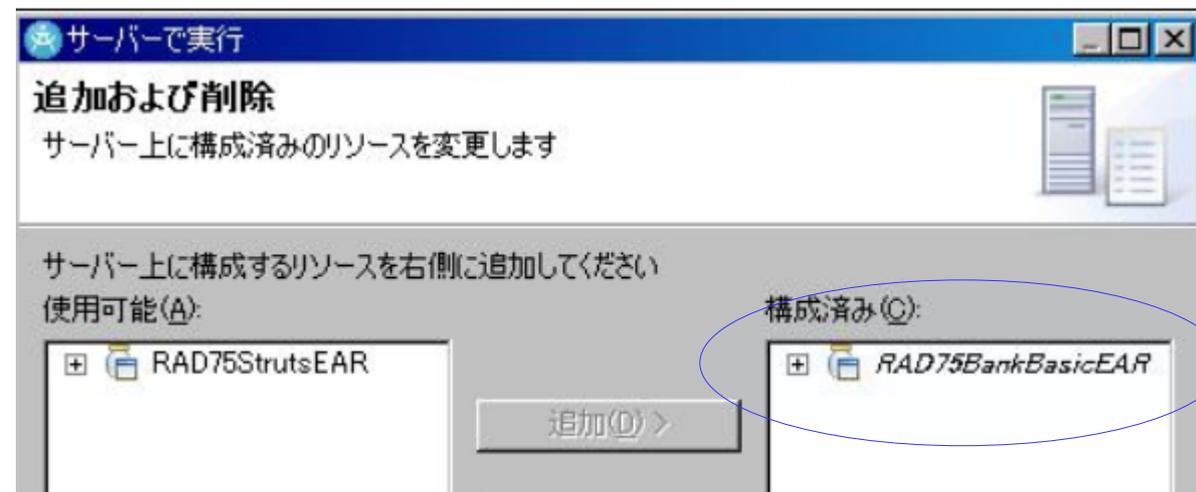
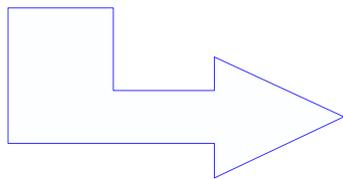
## STEP8: WAS 8 へのデプロイ

- WAS8 でアプリケーションを稼働させます。
  - プロジェクトを右クリック→ 「サーバーで実行」 を選択します。

実行環境に WAS8 を選択します。

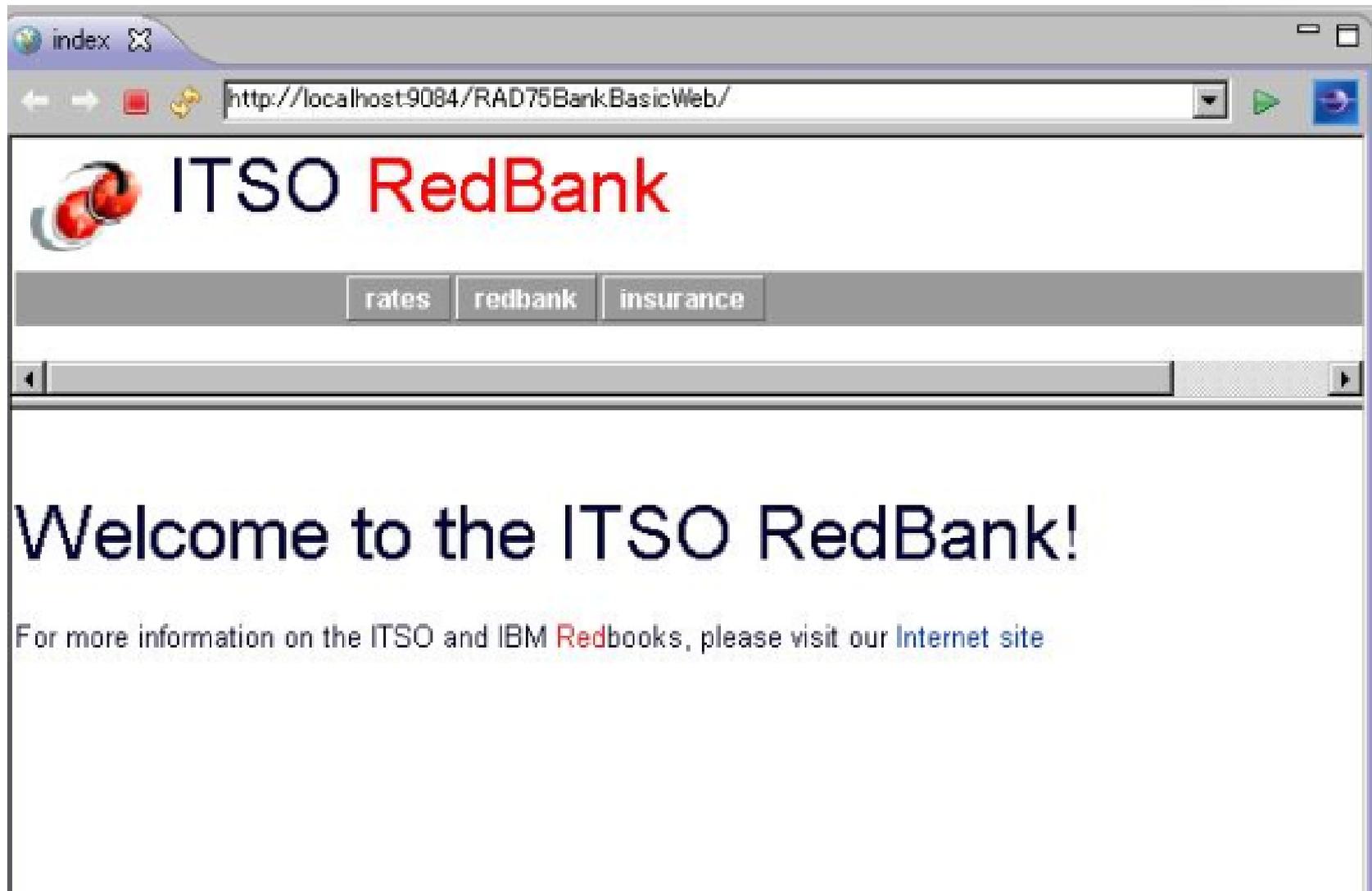


構成済みに実行したいアプリケーションを追加



## STEP8: WAS 8 へのデプロイ

WAS8 でアプリケーションが稼動！

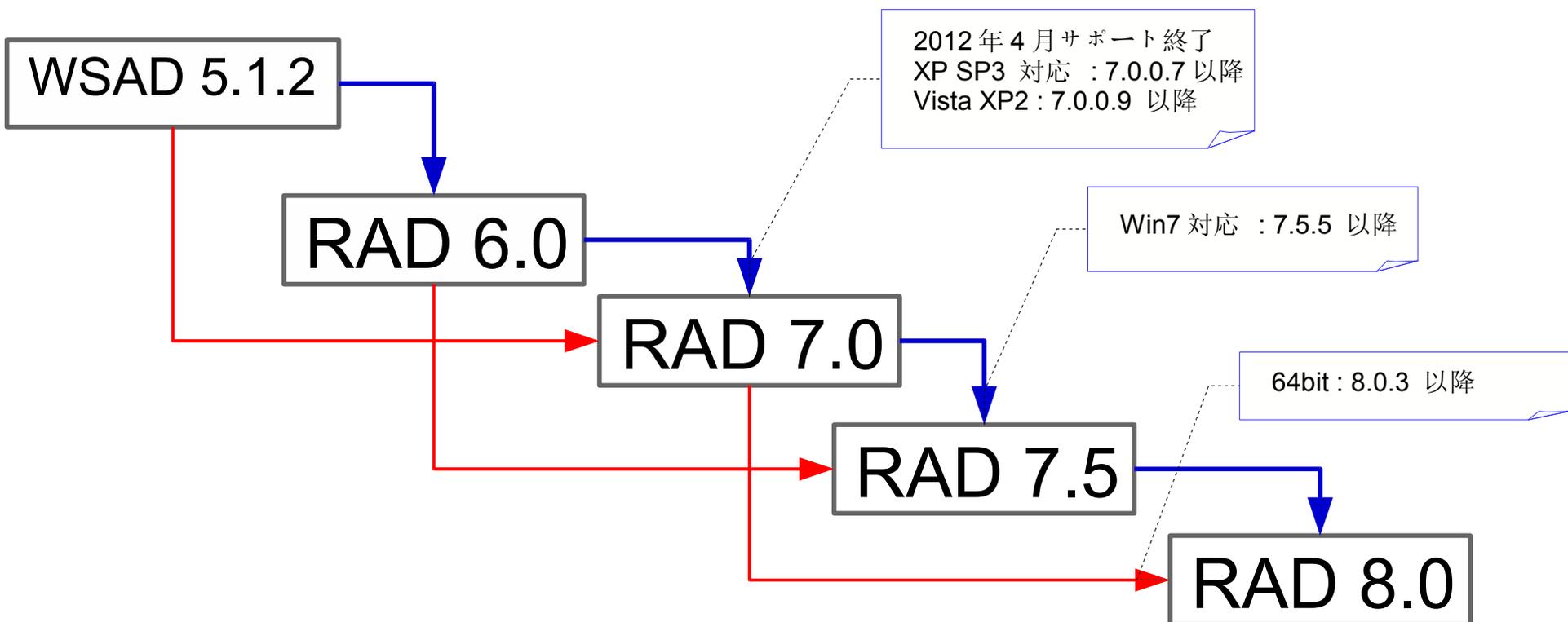


# RAD マイグレーションの注意事項等



# マイグレーションパス

- 2世代前のバージョンからのマイグレーションをサポートされます。
- 各メジャーバージョン内の最新バージョンにマイグレーションすることをお勧めします。
  - OS のサポートや、プロダクトのサポート終了の時期に留意してください
- Installation Manager は常に最新のものを利用してください

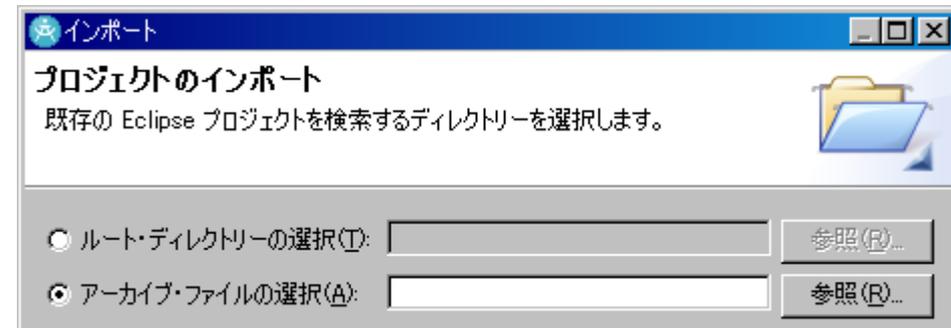
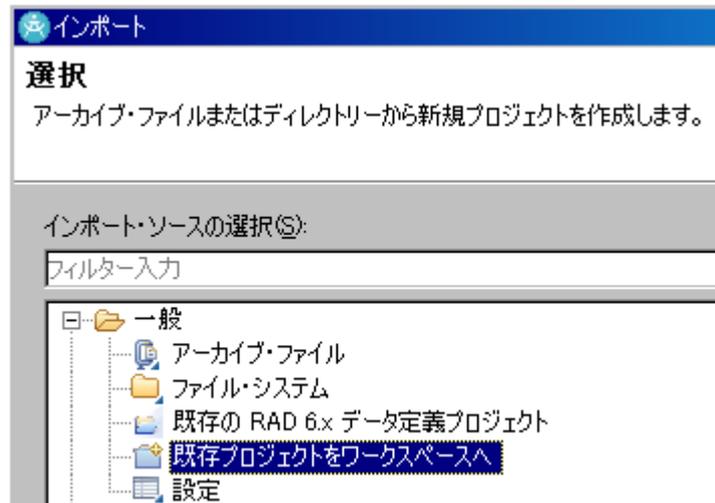


# マイグレーションの方法

以下、3つの方法がサポートされます。

- ワークスペースをそのまま開く
- プロジェクト交換でのインポート・エクスポート
- ソース管理システムを使ったマイグレーション

※ RAD 8.0 では、「プロジェクト交換」が廃止になったため、インポート / エクスポート → 「既存プロジェクトをワークスペースへ」を使用します。



# J2EE ライブラリとビルドパス

ターゲットランタイムサーバーでサポートされる、最新のサーブレット仕様バージョン以外のバージョンの仕様で開発ができない問題。

( <https://www-304.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21507291> )

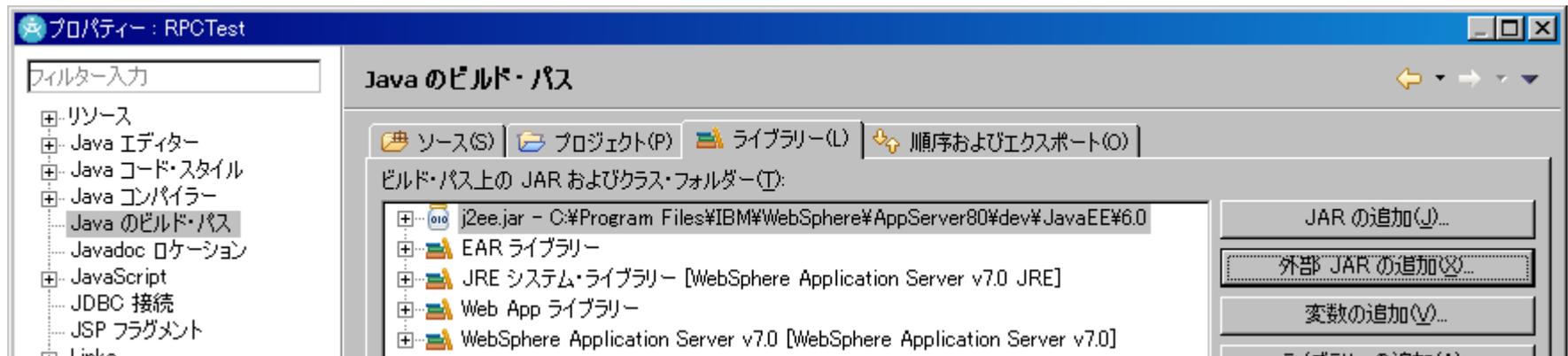
例:

WAS 8.0 サーブレット 2.2 から 3.1 までサポート。しかし、サーブレット 2.2 使用の実装をすると、実装時にコンパイルエラーが起こる。

(ランタイムはサポートされているので、実行時にエラーは起こらない。)

回避策:

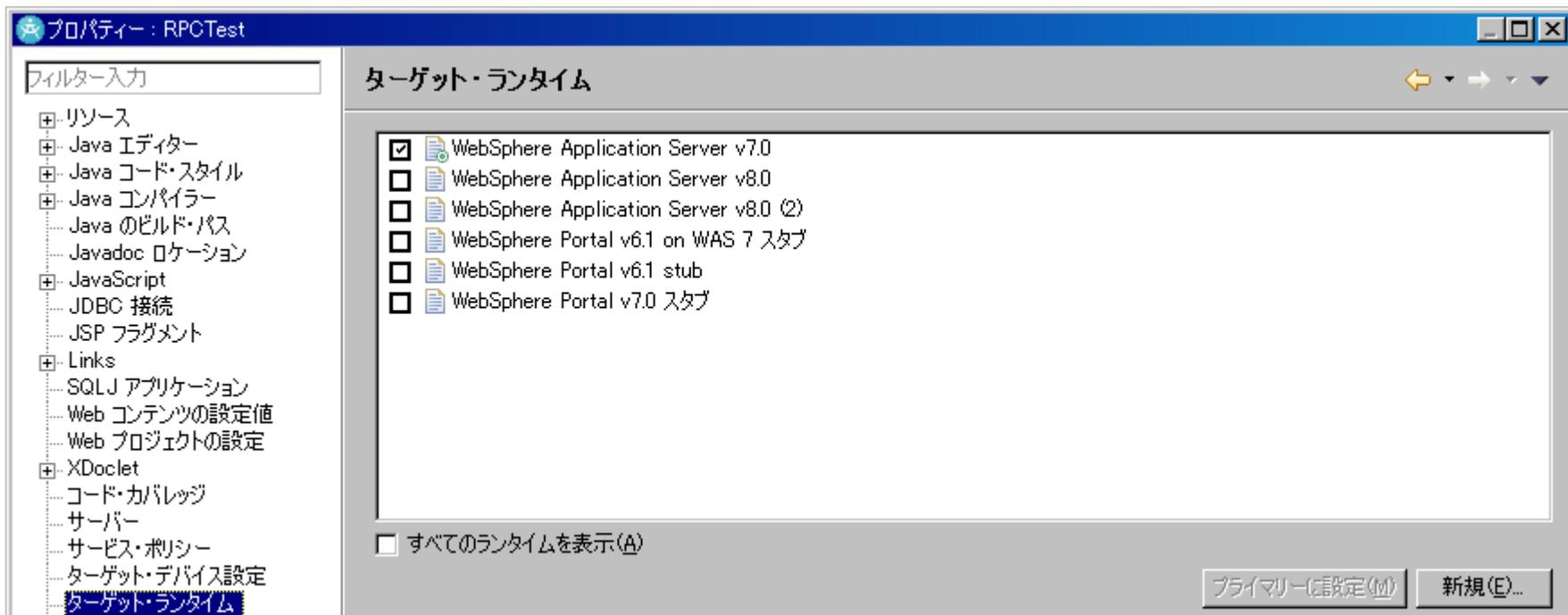
プロジェクトのビルドパスで、古いバージョンの j2ee.jar ファイルを、ビルドパスに追加し、新しいバージョンの j2ee.jar より前に登録します。



# ターゲットランタイムとファセット

ターゲットランタイムサーバーは、必ずマイグレーション前のプロジェクト内で、設定してください。

ターゲットのランタイムサーバーのバージョンを元に、プロジェクトのファセットが設定される部分もあります。設定せずに、マイグレーションを行うと、プロジェクトのいくつかの設定が欠落し、手動で設定する必要が生じます。

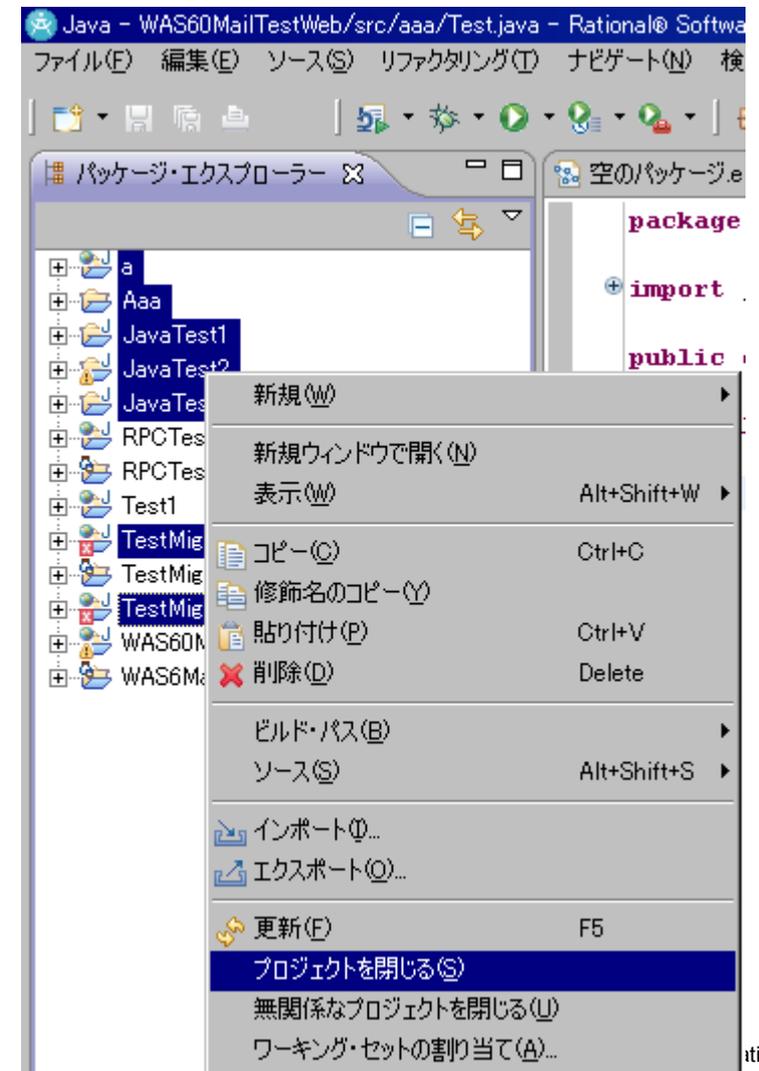


## EAR/lib 以下に配置された、jar ファイル

- EAR/lib 以下に配置された jar ライブラリファイルは、マイグレーション時に自動的に認識されません。
  
- 回避策
  - EAR の直下に配置
  - 手動でプロジェクトのビルドパスに追加

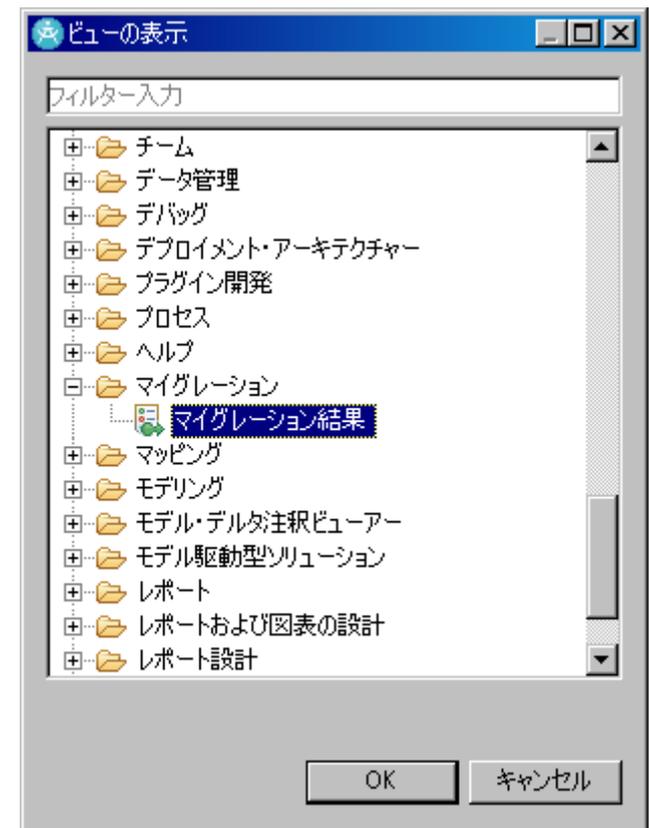
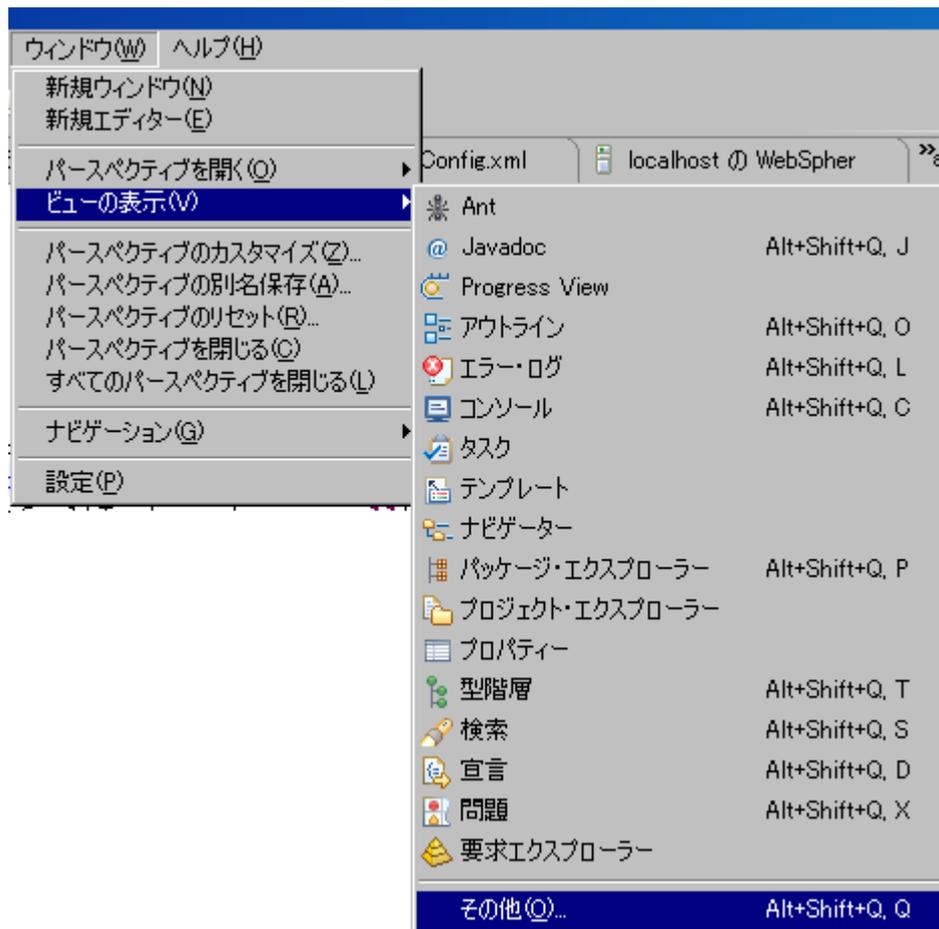
# 一部のプロジェクトのみのマイグレーション

- ワークスペース内の一部のプロジェクトのみマイグレーションをしたい場合は、以下の2つの方法があります
  - 元のバージョンで「プロジェクトを閉じる」のコンテキストメニューからプロジェクトを閉じた状態にし、新しいバージョンでワークスペースを開く
  - マイグレーションウィザードで、マイグレーションをするプロジェクトを選択する
- マイグレーションでエラーが起こったなどで、もう一度マイグレーションプロセスを実行させたい場合は、「プロジェクトを閉じる」→「プロジェクトを開く」



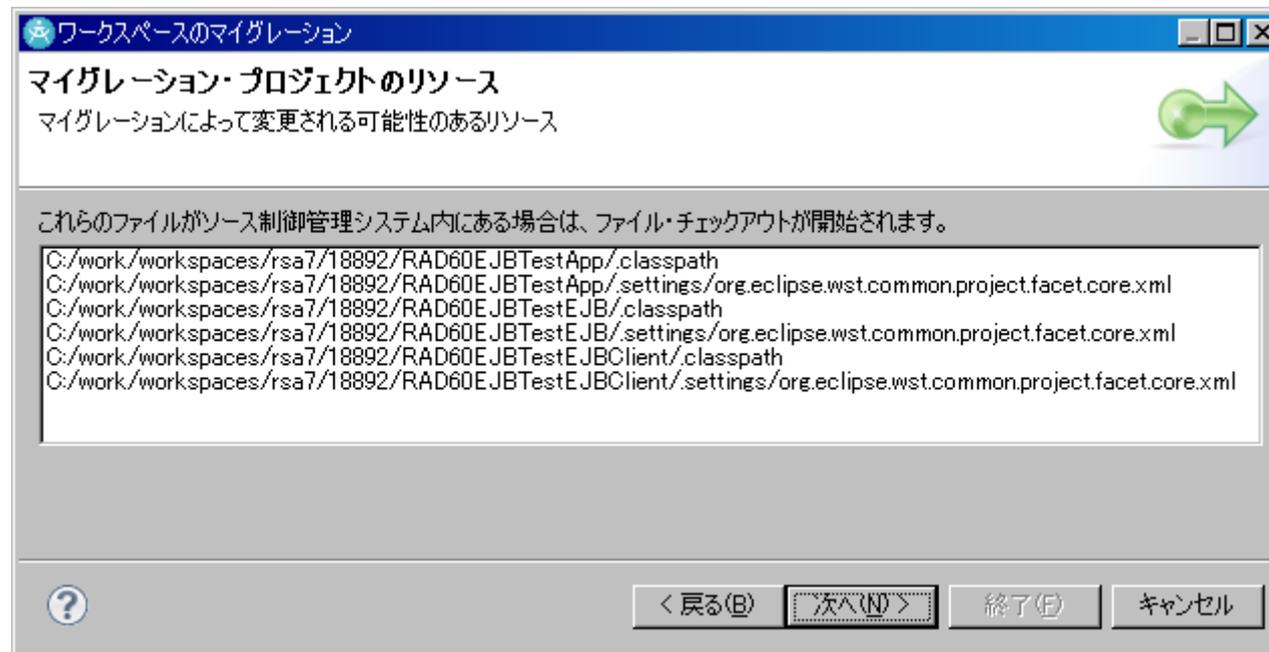
# マイグレーション結果の確認方法

- ウィンドウ > ビューの表示 > マイグレーション > マイグレーション結果
- ログには残りません



# ソース管理を用いたマイグレーションの方法

- どのファイルがマイグレーション時にチェックアウトしてあるべきかは、マイグレーションウィザード中の「マイグレーション・プロジェクト・リソース」ビューにて一覧されます。
- この機能、7.5 で導入されました。7.5 以前のバージョンでは、マイグレーションの失敗の原因の数多くは、マイグレーション時に更新されるべきファイルが、チェックアウトされていなかったり、リードオンリーになっていたためです。
- 全てのファイルをチェックアウトしておくことをお勧めしますが、このビューにて、最低限チェックアウトされているべきファイルを知ることができます。



# アプリケーションのマイグレーションの注意事項（1）

- EJB3.x プロジェクトへのマイグレーション

EJB 1.x 2.x のプロジェクトを EJB 3.x にマイグレーションできますが、IBM®WebSphere® Application Server バージョン 7.0/8.0 は、EJB 3.x レベルのモジュール内の 1.x および 2.x Bean 管理パーシスタンス (BMP) およびコンテナ管理パーシスタンス (CMP) エンティティ Bean をサポートしていません。EJB エンティティ Bean は V8.0 で使用できますが、それらの Bean は EJB 2.1 またはそれよりも前のレベルのモジュールにパッケージされている必要があります。

See:

[http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/wasinfo/v7r0/index.jsp?topic=/com.ibm.websphere.nd.doc/info/ae/ae/rejb\\_consider.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/wasinfo/v7r0/index.jsp?topic=/com.ibm.websphere.nd.doc/info/ae/ae/rejb_consider.html)

## アプリケーションのマイグレーションの注意事項（2）

- Web サービスの再生成の必要性に関して

基本的に Web サービスを再生成する必要はありません。サーバーのランタイムのバージョンをマイグレーションし、かつ、新しいバージョンのランタイムで、Web サービスの障害などが修正されている場合などでは、再生成を検討します。

参照：

<https://www-304.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21289115>

WebSphere 側での情報

[http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/wasinfo/v7r0/index.jsp?topic=/com.ibm.websphere.nd.doc/info/ae/ae/rwbs\\_migrate.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/wasinfo/v7r0/index.jsp?topic=/com.ibm.websphere.nd.doc/info/ae/ae/rwbs_migrate.html)

Migration planning for Rational Application Developer

<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27016079>

マイグレーションの概要

[http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/radhelp/v8/topic/com.ibm.etools.rad.migration.doc/topics/c\\_migrationoverview.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/radhelp/v8/topic/com.ibm.etools.rad.migration.doc/topics/c_migrationoverview.html)

ターゲット・ランタイムを WebSphere Application Server に設定されたプロジェクトの V7.0 または V7.5 から V8.0 ワークベンチへのマイグレーション

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/radhelp/v8/topic/com.ibm.server.tools.doc/topics/tmigtargetruntime.html>

J2EE プロジェクトのマイグレーション

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/radhelp/v8/topic/com.ibm.j2ee.doc/topics/tjmigrate.html>

仕様および API 資料

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/wasinfo/v8r0/index.jsp?topic=/com.ibm.websphere.base.doc/info/aes/ae/welc6topmigrating.html>

マイグレーション、共存、および相互運用

<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/wasinfo/v8r0/topic/com.ibm.websphere.base.doc/info/aes/ae/welc6topmigrating.html>

## 免責事項

当資料は、お客様の問題解決のためのヒントとしてご利用ください。当資料における記載内容は、お客様固有の問題に対し適切であるかどうか、また正確であるかどうかは十分検証されていません。結果についていかなる保証も責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。